



学校だより 第7号

菩

提

樹

平成27年11月

高岡市立東五位小学校



人のため

校長 吉田 茂

先月、スウェーデンから日本に、たいへんうれしいニュースが飛び込んできました。北里大学特別栄誉教授の大村智氏が、ノーベル医学生理学賞を受賞されたことです。アフリカ等で寄生虫が引き起こす熱帯感染症に大きな治療効果を挙げた特効薬を開発したことが認められ、ノーベル賞という最高の栄誉に輝かれました。

受賞の喜びを語られるインタビューの中で、「祖母が『**人のために役に立ちなさい**』と繰り返し話してくれました。人生で分かれ道に立ったときは、そういうことを規準に判断していました。」と話されたことがたいへん印象に残っています。大村氏の母は小学校の先生で日々忙しく、もっぱら祖母が面倒を見ていたそうです。大村氏の人生の道標となる高い道德観をさりげなく話されていたおばあさんもすばらしいと感じるとともに、家庭教育の重要性を改めて感じた次第です。

先日、学校給食に食材を納入していただいているニッショク（株）を視察した折、宮崎欽治社長よりニッショクの経営理念・哲学を伺う機会がありました。保健所が審査する「衛生監視表」が100点（※実は減多に満点にならないそうです）に至るまでの経緯や安全・安心に対するニッショクの取組について、社長自ら迫力ある口調で説明していただきました。

その中で特に感銘を受けたことが二つあります。一つ目は、**安全・安心**への取組です。食べ物を扱う以上、当然といえば当然ですが、様々な取組は全てお客さんの立場を第1に考えており、それが商品の選定から事故を想定した対策等に生かされていると感じました。二つ目は、「**凡事徹底**」です。簡単なことでも『なるまでやる』ことが基本だそうです。目立たなくても、一つ一つのことをきちんと身に付けないと、何事も中途半端に終わってしまうと改めて感じました。

お客さんのため、正しいことを追求するという力強い理念を述べておられた宮崎社長の生き方には、今回ノーベル賞を受賞された大村氏の生き方に共通するものがあると思いました。

以上の事例からは、学校教育や家庭教育に生かせることが多々あると思います。中でも、日々の生活の中の些細と思われる行動をおろそかにしないこと、人の役に立てるように自分の能力の向上に努めることは、何より自分の生活をより豊かで生き生きしたものにつながるのではないかと考えます。

私は以前、上司から「本当に迷った時は、難しい方、面倒な方、質の高い方を選んだ方がいいよ。」と言われた言葉が今でも心に残っています。ただ、その意味することを、まだまだ実践に結び付けていないことが反省点です。

皆さんは、判断に困ったり迷ったりした時、最終的に何を基に判断されるでしょうか。



